

*more***Trees**®



2014年活動報告書

1. 森林プロジェクト実施状況

- 010. 岩手県住田町
- 004. フィリピン キリノ州

2. 啓発事業

- ツーリズム
- ワークショップ
- 子ども達とつくる
1万本の植樹プロジェクト
- 丸の内朝大学
- Earth Day Tokyo 2014
- エコプロダクツ 2014

3. カーボン・オフセット事業

4. その他事業

- 都市での木材利用
- more trees プロダクト
- more trees LEATHER

2014



more trees Forest Map





2007年の活動スタート以降、森づくりの活動は徐々に広がりを見せ、2014年12月現在、国内11か所、国外1か所(フィリピン・キリノ州)での森づくりに取り組んでおります。その中でも今年度、特に動きがあったプロジェクトをご報告いたします。



岩手県 住田町

project 010

岩手県住田町

2011年3月11日の東日本大震災における被災地でもある岩手県住田町(すみたちょう)。

more treesは、震災の直後から、同町を対象にした被災地支援プロジェクト「LIFE311」を展開しています。これは、同町が推進する木造仮設住宅の建設および木質ペレットストーブの設置をサポートする取り組みです。

93棟の木造仮設住宅に使用されている木材は、全て地元産のスギやマツです。持続的な林業を行う過程で生じる木材を有効に活用することで、森林保全にもつながっています。

また、木屑を固めたペレット燃料も地元産です。丸太を製材する過程で生じる木屑もエネルギーとして有効に利用する仕組みづくりに寄与しています。

2014年7月8日、2013年4月～ 2014年3月に皆様よりお寄せいただきました「LIFE311」への支援金、17,165,670円を住田町へお届けしてまいりました。目標金額3億円の内、2014年12月5日現在、延べ219,200,180円の支援金をお届けしています。

岩手県住田町の仮設住宅では、現在約4割の世帯が退去されています。しかし、依然として過半数の方が仮設住宅での生活を余儀なくされています。

震災から3年半が経過し、人々の関心が徐々に薄れてしま

いがちではありますが、被災地の復興はまだ道半ばです。more treesは森林保全団体の立場から、引き続き復興支援に取り組んで参ります。



木造仮設住宅(中上団地)



ペレットストーブ

project 004

フィリピン キリノ州

フィリピンは森林荒廃が深刻で、20世紀初頭には国土の70%を占めていた森林が、2005年にはわずか24%にまで減少しています。日本は戦後間もないころよりフィリピンからの木材輸入を開始し、同国の木材資源の枯渇が深刻化した1980年代に至るまで、同国の森林資源に大きな影響を与えてきました。そうして日本の発展に深くつながってきたフィリピンの森への恩返しの意味も含めて、2009年よりNGOコンサベーション・インターナショナルと共にフィリピンでの森林再生プロジェクトに取り組んでいます。

フィリピン キリノ州

植林の対象地

本プロジェクトで植林の対象地となっているのは、ルソン島北部キリノ州の荒廃地。その面積は約180haで、東京ドームおよそ40個分の広さに相当します。この地域一帯はフィリピンに生息する生物種の45%が生息しているといわれています。その生態系の保全のため、本プロジェクトは在来種を中心とした植林を行い、その後も適切な森林管理を推進することで、生物多様性の保全にも貢献します。

一方で、この地域の約半数の世帯が年間1,000ドル～2,000ドルで生活しています。このプロジェクトではアグロフォレストリー（果樹も同時に育てること）を実施し、収穫した果実の販売による現金収入の機会を創出するなど、地域の貧困削減も目指しています。

2014年は、生育調査、枯死した木の植替え、管理作業（火災防止の為に雑草除去）などを行いました。植林後3～5年が経過し、これまでに台風などの自然災害にも見舞われましたが、苗木は概ね順調に育っています。

植林前の荒廃地



地域住民や現地NGOスタッフと





ツーリズム

more treesは、協定を結ぶ地域とのネットワークを活かし、森を感じるツーリズムの普及に取り組んでいます。実際に森を訪れ、各地域の個性や魅力を五感で感じていただきます。実際に訪れることで「人」どうしの結び付きが生まれ、都市と森を「顔の見える関係」でつなげていきます。2014年は、3回にわたりオリジナルツアーを実施いたしました。

2014年6月27日・28日

岐阜県東白川村
「株式会社ニューポート」様の
社員研修としてツアーを実施

2014年9月7日

東京都奥多摩
「Afternoon Tea LIVING」様の会員様を
対象に森林セラピーツアーを実施

2014年11月1日～3日

宮崎県諸塚村
オリジナルツアーを実施



茶摘み体験（岐阜県東白川村）



自然豊かな森の中を散策（東京都奥多摩）



製材所の見学（岐阜県東白川村）



間伐体験（宮崎県諸塚村）



森林セラピーでのヨガ体験



日本ミツバチの採蜜体験

ワークショップ

森の魅力を感じていただける様々なワークショップを開催しています。

ワークショップを通じて、幅広い年代の方に森林・林業を身近に感じていただくと共に、楽しみながら参加することができる国産ヒノキを使用したスプーンづくりや、マイ箸づくりなどのワークショップコンテンツをご用意しております。

ワークショップ開催時には、日本や世界の森林の現状、役割などをわかりやすく説明する時間を設け、より理解を深めていただけるよう努めました。



2014年4月19日・20日

「EarthDayTokyo 2014」
活動紹介展示とスプーンづくりワーク
ショップを実施

2014年7月5日

「青のホリデー」
IID世田谷ものづくり学校
スプーンづくりワークショップを実施

2014年7月30日～8月12日

日本橋三越「はじまりのカフェ」
プロダクト展示・販売、木片工作・スプー
ンづくりワークショップを実施

2014年8月9日・16日・23日

「ギンザのサエグサ」
「森のお話」と升の絵付け・木とんぼづく
り・スプーンづくりワークショップを実施

2014年8月20日

「Afternoon Tea LIVING」玉川高島屋
S・C店
「森のお話」とスプーンづくりワークショッ
プを実施

2014年9月20日・21日

「Afternoon Tea LIVING」北千住ルミネ店
スプーンづくりワークショップを実施

子ども達とつくる 1万本の植樹プロジェクト

2014年7月19日より9月28日まで「都市と自然」をテーマに開催された「札幌国際芸術祭 (SIAF) 2014」と連携し、石狩川の原風景を今に伝える貴重な場所である札幌市・茨戸（ばらと）川緑地において、子供達と一緒に1万本の植樹を行うプロジェクトを実施しました。

more treesは、インターネットを介して不特定多数の個人からプロジェクト実行に必要な資金（支援金）を集める「クラウドファンディング」の仕組みを利用し、集まった支援金を植樹の際に使用する苗木の費用として札幌市に寄付いたしました。

2014年8月22日、more treesと札幌国際芸術祭の特別連携事業「さっぽろふるさとの森づくり植樹祭&育樹祭2014」の開催を前に、札幌市内にある富丘小学校六年生のみなさんを対象に、植樹についての理解をより深めてもらうため、環境学習とポット苗づくりを実施いたしました。

2014年9月24日に開催された「さっぽろふるさとの森づくり植樹祭&育樹祭2014」は、札幌市内にある保育園と小学校から約1,400名の児童が参加し、植樹と育樹を体験していただきました。

環境学習の様子



植樹祭&育樹祭の様子



丸の内朝大学

出社前の時間を活用し、充実した朝を過ごすライフスタイル「朝活」。その代表格である「丸の内朝大学」で、2013年春より年2回講座を実施しています。都市に暮らしながら、森林・林業について学び、理解し、双方の橋渡し役を担える人材を育成しています。フィールドワークでは、林業を原動力に震災からの復興に取り組む岩手県住田町を訪れ、林業体験や被災者との交流、木造仮設住宅や被災地の見学などを通じ、現場を肌で体感する機会をご提供いたしました。

2014年4月15日～6月3日

春学期
「焚き火マエストロクラス」実施

2014年10月7日～11月11日

秋学期
「焚き火マエストロクラス」実施



Earth Day Tokyo 2014

2014年4月19日、20日、地球環境について考え行動する日本最大級の市民によるフェスティバル「Earth Day Tokyo 2014」に出展しました。

more treesの活動の紹介やオリジナルプロダクトの展示を行うとともに、国産材を使用したスプーンづくりのワークショップを実施しました。more treesのブースには、子どもから大人まで幅広い年代の方にお越しいただきました。



エコプロダクツ 2014

2014年12月11日、12日、13日、日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2014」に初出展しました。

活動の紹介やオリジナルプロダクトの展示等を実施し、沢山の皆さまにブースにお立ち寄りいただきました。



主に経済活動によって排出されるCO₂を森林が吸収するCO₂でオフセット（相殺）するカーボン・オフセット事業を推進しています。more treesは、森林に特化したカーボン・オフセットサービスを提供し、持続的な森づくりと気候変動対策に貢献するとともに、その対価を協定を結ぶ地域に還元しています。

2014年は、「カーボン・マーケットEXPO2014」への出展、more treesの森がある高知県中土佐町の宿泊施設『黒潮本陣』において、宿泊の際に使用する電力に伴うCO₂を四万十川流域の人工林の森林整備の実施によりオフセットする取り組みを実施いたしました。

2014年3月4日

「カーボン・マーケットEXPO2014」に出展

2014年4月～

高知県中土佐町の宿泊施設『黒潮本陣』
カーボン・オフセットの取り組み開始



高知県中土佐町「黒潮本陣」



都市での木材利用

これまでプロダクトを通じて国産材を利用してきましたが、より流通量を増やし、都市と森の循環を活性化するために、空間プロデュースをスタートしました。2014年1月にオープンした赤坂のビジネスラウンジ「T-TIME」には、more treesが森づくりで関わる北海道、岐阜、高知の木材がふんだんに使用されています。2014年は、東京都内の店舗やカフェなど計4店舗の空間プロデュースを手掛けました。今後、more treesの森がある地域と連携しながら国産材の積極的利用を推進していきます。

2014年1月

東京・赤坂「T-TIME」(ビジネスラウンジ)

2014年3月

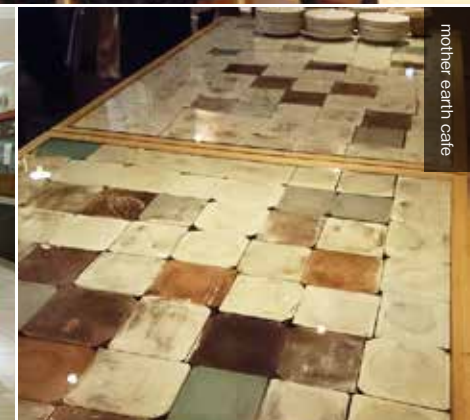
東京・恵比寿「mother earth café」(カフェ)

2014年10月

東京・玉川高島屋「ヤマト醤油味噌」(店舗)

2014年11月

東京・恵比寿「森の机」(レストラン)



more trees プロダクト

森林整備の推進と同時に、国産材のプロダクト開発に取り組んでいます。素材には、日本の森林の約40%を占めているスギ、ヒノキをはじめとした針葉樹をメインに活用しています。プロダクトデザイナーや地域の製材・木工業者と連携したモノづくりを行い、良質なデザインプロダクトを生産し、より多くの人に木のぬくもりを感じていただけるようなライフスタイルを提案していきます。

2014年7月には、プロダクトデザイナー深澤直人氏デザインのヒノキの「まな板」がmore treesプロダクトとして新たに誕生しました。



more trees LEATHER

この数十年の間に、日本に生息するシカは急激に増加しており、農作物や山林を荒らす被害が深刻化しています。山林では、樹皮や新芽、若木が被害を受け、新たに植林しても木が育たない森林が全国各地で拡大しています。増加したシカは捕獲・駆除されていますが、利用が進まずその大半が廃棄されているのが現状です。そこでmore treesは、未利用だったシカ革を「森のめぐみ」として有効利用する取り組みをスタートしました。

2014年、『more trees LEATHER』の名称で、エシカルな素材として活動に賛同くださった企業様により商品の販売がスタートしました。

2014年2月

NEW YORK開催「LEATHER JAPAN 2014」に『more trees LEATHER』を使用した作品を出展

2014年4月

伊勢丹新宿店『more trees LEATHER』を使用した商品の販売開始

- 三陽商会「三陽山長」ドライビングシューズ
- モルフォ「モルティ ペルソーネ」長財布/二つ折り財布/名刺入/小銭入

2014年5月

伊勢丹新宿店『more trees LEATHER』を使用した商品の販売開始

- 大塚製靴「オーツカシンス1872」スリッポン





これからも、「都市と森をつなぐ」をテーマに

森を身近に感じていただけるような活動を進めて参ります。

引き続きご支援の程、よろしくお願いいたします。